

※対象期間外のできごとを掲載させていただく場合もあります

5/20 pick up 「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」を改定・公表

内閣府は、改正災害対策基本法の施行を受け、市町村が事務を行う際に参考とする「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」を改定・公表した。福祉避難所の確保や、直接避難、感染症・医療的対応等の課題に対応するための具体的な方策が盛り込まれている。

4/27 外国人児童生徒の受入れのためのターゲット別動画を制作

文科省は、外国人児童生徒等の教育の充実を図るため、教職員・支援者向け研修用動画と外国人児童・保護者向け動画コンテンツを制作し、ホームページに公開した。教職員・支援者向け研修用動画には日本語指導等を行う際の必要な知識、外国人児童・保護者向け動画には日本の小学校の学校生活を盛り込んでいる。

4/28 LINEによるDV相談 「ささえるライン@東京」を開始

都生活文化局では、新型コロナウイルスの感染拡大により不要不急の外出自粛が続く中、配偶者やパートナーによる暴力に関する電話相談が難しくなっている状況を受けて、LINEによる相談を開始した。相談対応時間は年末年始、7月第3日曜日を除く午後2時から8時まで。LINEの公式アカウントから「ささえるライン」で検索して登録。

5/10 「外国人留学生の国内就職支援研修モデルカリキュラム」を開発

厚労省は、日本で就職を希望する外国人留学生を対象に、国内就職を支援するための研修モデルカリキュラムを開発。日本の職場に必要なコミュニケーション能力の向上やビジネススマイル、雇用慣行等に関する知識の習得などを目的とした内容が盛り込まれており、大学のキャリアセンターや地方公共団体などが実施する研修で活用することを想定している。



江戸川区立さくらの家「キャラバン」隊〜チーム千本桜の皆さん

頃の思い出や現在の楽しみのほか、「町で困っている障害者がいたら、助けてあげて下さい」というメッセージが語られています。この方はDVDへの出演を「緊張し、恥ずかしかった」と振り返ります。「工事現場を通りかかった時に障害者が通ります」と大きな声で言われて嫌な思いをした」ことがあり、自分より重度の障害がある方

の様子も日頃見聞きしていること、差別や偏見をなくし、誰もが暮らしやすい社会をつくる目的で、対象者に応じて障害の特性を分かりやすく紹介し、障害者への具体的な接し方等を伝えています。表現を工夫しワークショップ形式で行われています。中村さんは、まず職員研修で、全職員が親の会のキャラバン活動を受講することを計画しました。同時に、自分たちも伝える活動に取り組みしてみようと考えました。「地域の行事等に参加してきたが、施設があまり知られておらず、障害理解もすすんでいないと感じていた。この活動が地域との関わりを深めるきっかけになる」と思ったと中村さんは言います。2年8月に職員研修で実際にキャラバン活動を体験すると、チームによる取組みへの機運が一気に高まり、具体的な検討がすすみました。小学校の授業等にも今後関わっていくことを想定し、活動の対象者を小学校高学年に決めました。しかし、コロナ禍で学校への訪問や学習会等の開催が難しいことが予想されたため、D



DVD「障害ってなんだろう」パッケージデザイン。背景はさくらの家の利用者の作品です。

VDの制作を決めました。◆伝えたい内容と分かりやすさを追求 DVDは約24分間で、7つのパートから成り立っています。「さくらの家の紹介」「障害って何」「障害者が持つ特徴等の理解を深める」「ワーク」「障害者との接し方をクイズ形式で伝える」「接し方のヒント」「当事者の「メッセージ」」等です。担当パートごとにグループで作業し、親の会のキャラバン活動の内容を参考に、さくらの家の利用者意識して特に伝えたい内容を絞り、アニメーションや実演を交えるなど手法にも多くのアイデアを盛り込みました。障害の知識だけでなく、障害者への接し方を具体的に考えてもらえるよう伝え方を工夫しています。撮影後はテロップや効果音の入れ方等にもこだわり、修正を重ねました。区教育委員会からは小学校での活用を想定した助言ももらいました。例えば、「ワーク」では、手作りの絵や道具を使った実演を通じ、気になるものだけに焦点化し、周りが見えにくくなる「シングルフォーカス」の特徴を持つ人がいることを紹介しています。また、手先の不器用さがある人の特徴を伝えるため、軍手を着けた人(障害者役)と素手の人がシール貼りの作業をする実演もしています。

です。また「職員のキャラバン活動はおそらく今回が初めて。法人内の他施設や事業所にも活動を広げ、各地での理解啓発の取組みをすすめて」と抱負を語ります。DVDについては、さくらの家ホームページから(<http://www.ikuiseikai-kyo.or.jp/~iku-sakuranote/index.html>)。 ◆当事者からも小学生へメッセージ



障害者への理解啓発のため、福祉施設が小学生向けのDVDを制作

江戸川区立さくらの家

江戸川区立さくらの家(以下、さくらの家)は、平成21年4月に開所した、障害者総合支援法および江戸川区立施設条例に基づく生活介護を行う施設です。重度の知的障害者を主な対象とし、陶芸などの作業活動、機能訓練、生活・余暇活動等を行っています。社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会が運営を受託しています。

さららの家では、令和3年3月に小学校高学年向けの障害理解の啓発DVD「障害ってなんだろう」を制作しました。荒川沿いの「小松川千本桜」の間に施設があることから「キャラバン隊」チーム千本桜」と名づけた職員8名のチームが、すべて自分たちの手でつくりました。

◆職員による「キャラバン活動」を試行

制作のきっかけは、施設長の中村和入さんが、法人の母体である「東京都手をつなぐ親の会」の「キャラバン活動」の実演を見て感銘を受けたことです。「キャラバン活動」は、東京に限らず、全国各地の知的障害児者の親の会が実施している、障害に関

する理解啓発の活動です。差別や偏見をなくし、誰もが暮らしやすい社会をつくる目的で、対象者に応じて障害の特性を分かりやすく紹介し、障害者への具体的な接し方等を伝えています。表現を工夫しワークショップ形式で行われています。中村さんは、まず職員研修で、全職員が親の会のキャラバン活動を受講することを計画しました。同時に、自分たちも伝える活動に取り組みしてみようと考えました。「地域の行事等に参加してきたが、施設があまり知られておらず、障害理解もすすんでいないと感じていた。この活動が地域との関わりを深めるきっかけになる」と思ったと中村さんは言います。

2年8月に職員研修で実際にキャラバン活動を体験すると、チームによる取組みへの機運が一気に高まり、具体的な検討がすすみました。小学校の授業等にも今後関わっていくことを想定し、活動の対象者を小学校高学年に決めました。しかし、コロナ禍で学校への訪問や学習会等の開催が難しいことが予想されたため、D

VDの制作を決めました。◆伝えたい内容と分かりやすさを追求 DVDは約24分間で、7つのパートから成り立っています。「さくらの家の紹介」「障害って何」「障害者が持つ特徴等の理解を深める」「ワーク」「障害者との接し方をクイズ形式で伝える」「接し方のヒント」「当事者の「メッセージ」」等です。担当パートごとにグループで作業し、親の会のキャラバン活動の内容を参考に、さくらの家の利用者意識して特に伝えたい内容を絞り、アニメーションや実演を交えるなど手法にも多くのアイデアを盛り込みました。障害の知識だけでなく、障害者への接し方を具体的に考えてもらえるよう伝え方を工夫しています。撮影後はテロップや効果音の入れ方等にもこだわり、修正を重ねました。区教育委員会からは小学校での活用を想定した助言ももらいました。例えば、「ワーク」では、手作りの絵や道具を使った実演を通じ、気になるものだけに焦点化し、周りが見えにくくなる「シングルフォーカス」の特徴を持つ人がいることを紹介しています。また、手先の不器用さがある人の特徴を伝えるため、軍手を着けた人(障害者役)と素手の人がシール貼りの作業をする実演もしています。



「障害って何?」のパートの一場面

うまくシールを貼ることができない人に対し、あえて早くどこに貼っているの?などの嫌な声かけをする音声も入れ「こんなことを言われたらどう思うか」と見る人に投げかけられます。

このパートを担当した職員の鈴木悠さんは、説明に使った絵は4、5回描き直し、セリフや声のトーン、カメラワーク等も何度も試し、分かりやすく伝えられるよう工夫しました。制作の苦労と楽しさを語ります。

◆当事者からも小学生へメッセージ 「当事者のメッセージ」には、さくらの家の利用者とその親が出演しています。親の立場からは、子の障害が判明した時の気持ちなどが話されています。「避けるのでなく、声をかけて」「皆が顔見知りで声をかけ合えるコミュニケーションであってほしい」等のメッセージを寄せています。また、利用者の一人からは、小学生

第57回社会福祉セミナー 「ひきこもり」と社会福祉

主催	公益財団法人鉄道弘済会
後援	社会福祉法人全国社会福祉協議会
日時	2021年7月3日(土)、4日(日)10時~16時
開催方法	Zoomウェブナーを使用したオンライン配信
定員	600名(定員になり次第締切)
申込	無料
申込先	東社協発行「福祉広報」

2021年6月(No749)号に掲載